

## 水は空と地を循環するもの

大都市の水道水は、上流から下流に至るまでに、人間の身体を五回も通り抜けた水が原水だと言われ、そのためか直接飲む人は少なく、ペットボトルの水や浄水器などが飛ぶように売れている。それに加えて、「阪神・淡路大震災」では、水道水だけに頼る状況が、非常に脆弱であることも再認識された。

こうしたことからは、かつて飲料水を供給していた井戸が見直されている。その井戸水に水を供給する、地下の『水みち』の調査を進めているのが、『水みち研究会』である。

同会の神谷博代表は、世田谷区の西部を流れる『野川』という、全長二〇キロほどの小さな川の湧水保全の調査を行ったのがきっかけになりました」と言っ

高度成長期、下水が流れ込む野川は汚れた川だったが、明け方の一瞬、豊富な岸線湧水によつて清流を取り戻す状況だった。「国分寺から世田谷まで続く丘陵地に沿って出る多数の湧水が川を浄化するのだと分かりました」。

そこで地元の人々が連帯し、湧水の魅力を広く訴えて野川の再生に努め、その結果、下水道整備とあいまって元の美しい流れが蘇り、都会における川の再生のシンボルとなった。ちなみに、この野川の湧水は、その文化的な背景も含めて「湧泉」と呼ばれている。

水で蘇る都市の実践現場から

# 循環する水のあり方を 考えた都市計画を提案

水みち研究会

ナビゲーター  
水みち研究会代表  
神谷 博  
Hiroshi Kamiya



美しい水を蘇らせる源となった「湧泉(湧水)」。野川にはこのような「湧泉」が何か所もある



親水空間も設けられ、子供たちも水辺で遊べるようになった



今では美しい流れが蘇っている野川。近隣の住民も、その維持に気を使っている

水みち研究会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-48-16  
 ㈱設計計画 水系デザイン研究室  
 TEL:03-3789-2041 FEX:03-3789-2042  
 URL:http://www1.sphere.ne.jp/suikei



都会の川の復興のシンボルとなった「野川」と今回のナビゲーターを務めてくださった「水みち研究会」の代表で建築家の神谷博氏

(文責・CEL編集部)

「調査を進めるうちに『水みち』は形成されるものであり、また、単に地下だけの現象ではなく、空気中の水分が雨となり地下に降り、さらに蒸発するといった循環する過程そのものでもあることを改めて認識させてくれました」と神谷代表。

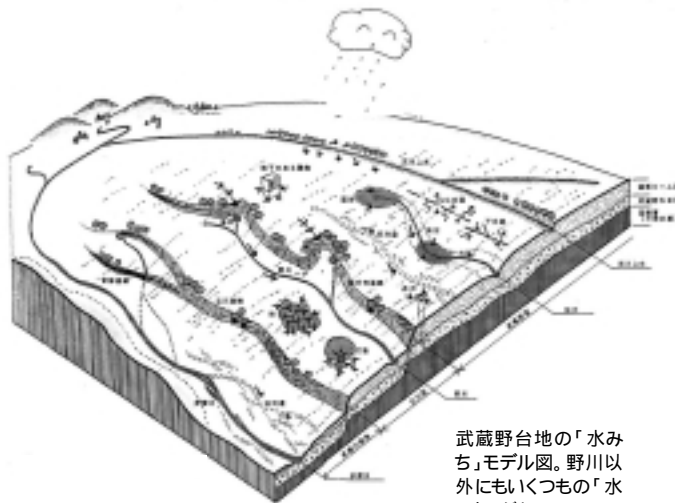
「調査を進めるうちに『水みち』は形成されるものであり、また、単に地下だけの現象ではなく、空気中の水分が雨となり地下に降り、さらに蒸発するといった循環する過程そのものでもあることを改めて認識させてくれました」と神谷代表。



都会の川とは思えない緑豊かな夏の野川(撮影:鏑山英次氏)



緑の保全・創出と水の循環を表した断面図



武蔵野台地の「水みち」モデル図。野川以外にもいくつもの「水みち」がある